

認定こども園 はぐくみの家 仰木星の子
令和4年度 自己評価・施設関係者評価 報告書

1. 園の教育目標

<教育・保育方針>

- ・子ども一人ひとりを大切にする教育・保育
- ・子どもたちのより良い今と未来につながる生きる力を育む

<具体的な目標>

- ・主体的・意欲的に行動できる力を身に付ける
- ・遊びや活動を通して総合的な生きる力を育む
- ・社会の一員として望ましい資質（社会性）を育む
- ・基本的生活習慣の自立を育む

2. 施設関係者評価委員会の総評

令和5年2月24日に評価委員6名が同席の上公開保育を実施するとともに、今年度の本園における目標と取り組み状況の聞き取りを含めて施設関係者評価を行った。

令和2年度に改築された園舎は綺麗で玄関は明るく、温かい雰囲気があり、心地よい空間であった。

雨天の公開保育であったが、雨でも絵具を使った遊びやごっこ遊びなど外遊びができる環境が用意されており、子どもの遊び心をしっかりと満たされるような空間が多くあった。

室内では特に4・5歳児の子ども達が自ら遊びを選び、大人が介入することもなく、友達と一緒に遊びを豊かに展開している様子が多く観られた。子ども達同志で遊びが展開できるのは、保育者の皆さんが、日ごろから子どもの興味関心を捉え、そしてつぶやきを拾い上げ、子どもの学びに繋がるような装飾や玩具の配置などの環境に工夫があるからだろうと推察した。また、子どもの制作物の展示の仕方も非常に工夫され、保護者や外部に対して保育の可視化をしていた。

0・1歳児クラスでは、外遊びは勿論、室内遊びも粗大運動遊びが十分にできるなど、発達に応じた環境設定があり、子どもの要求を十分満たすことができる室内であった。

課題としてあげられていた職員間の連携については、園全体の職員の雰囲気が良かったので課題があるように感じなかったが、敢えていうならクラス関係なく、子どもを真ん中に、全職員が全園児の育ちを見守るという意識を自然と持つことができると、より職員の一体感が生まれるのではないかと期待する。また、子育て支援についても、積極的に未就学児と保護者に向けて、自主事業において様々な企画や情報発信をされているので、こちらも地域の子どもの育つ場として園の役割を大きく期待したい。

3. 本年度重点的に取り組む目標（評価項目）と自己評価及び取り組み状況

| | 目標・取組内容（評価項目） | 評価 | 取り組み状況 |
|---|-----------------------------|----|---|
| 1 | 地域環境（主に仰木西公園）を安全かつ豊かに保育に活かす | B | 広大な仰木西公園の環境を活かして、自然環境と触れ合ったり、野球などスポーツを通して遊び学ぶ活動に取り組んだ。 園外での活動になることから、安全面への配慮として人員体制の充実や工夫を図りながら、次年度更に豊かにしていきたい。 |
| 2 | 応答的・対話的な保育をより豊かにする | B | 子どもと保育者の応答的・対話的な関係性をより豊かにすることを念頭に保育に取り組んだ。 過剰に関わることを避けつつも、適切な応答性・対話性で支援することについては、年度末の研修でもさらに学び深め、次年度へとつなげていきたい。 |
| 3 | ノンコンタクトタイムの達成率向上による保育の質向上 | A | ノンコンタクトとしての記録や計画、会議を行う時間を確保するため、ノンコンタクトシフトを作成し、達成率の向上を図った。 これにより達成率が向上するとともに、その内容の充実を図り、結果として保育の質向上を推進することができた。 |
| 4 | 保育に関する記録のあり方の検討・見直しの推進 | A | PDCA サイクルによる保育計画は、得てして子どもの実際の姿と乖離する側面が生じることから、子どもの姿からはじめる保育計画のカタチを模索した。 子どもの View を探しながら、観察・方向づけ・応答的な保育が紡がれるよう、保育の振り返りと計画様式を一新し、次年度の保育で取り組む。 |